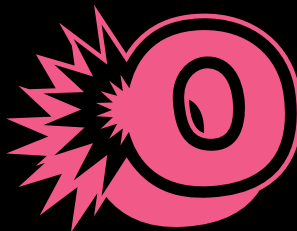


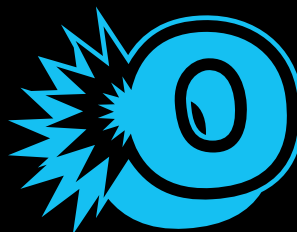
[特集]

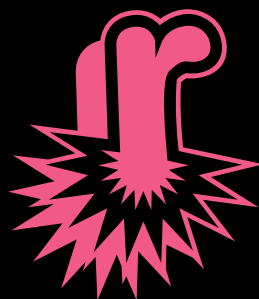


99年はこの機能で差をつける!

ホームページ

だれもがホームページを持つのは当たり前のことになった。HTMLの書き方に頭を悩ませたり、画像やプラグインを表示させて喜んだりしていた時代はもう過ぎた。充実した参考書や便利なソフトウェアは世の中にあふれている。ロゴを作った。アニメーションGIFも付けた。JavaScriptにも挑戦して

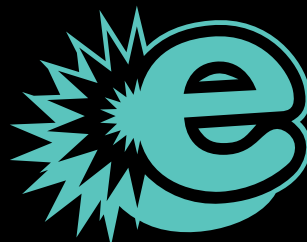
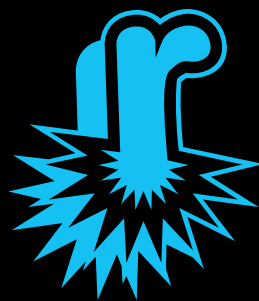




大改造計画

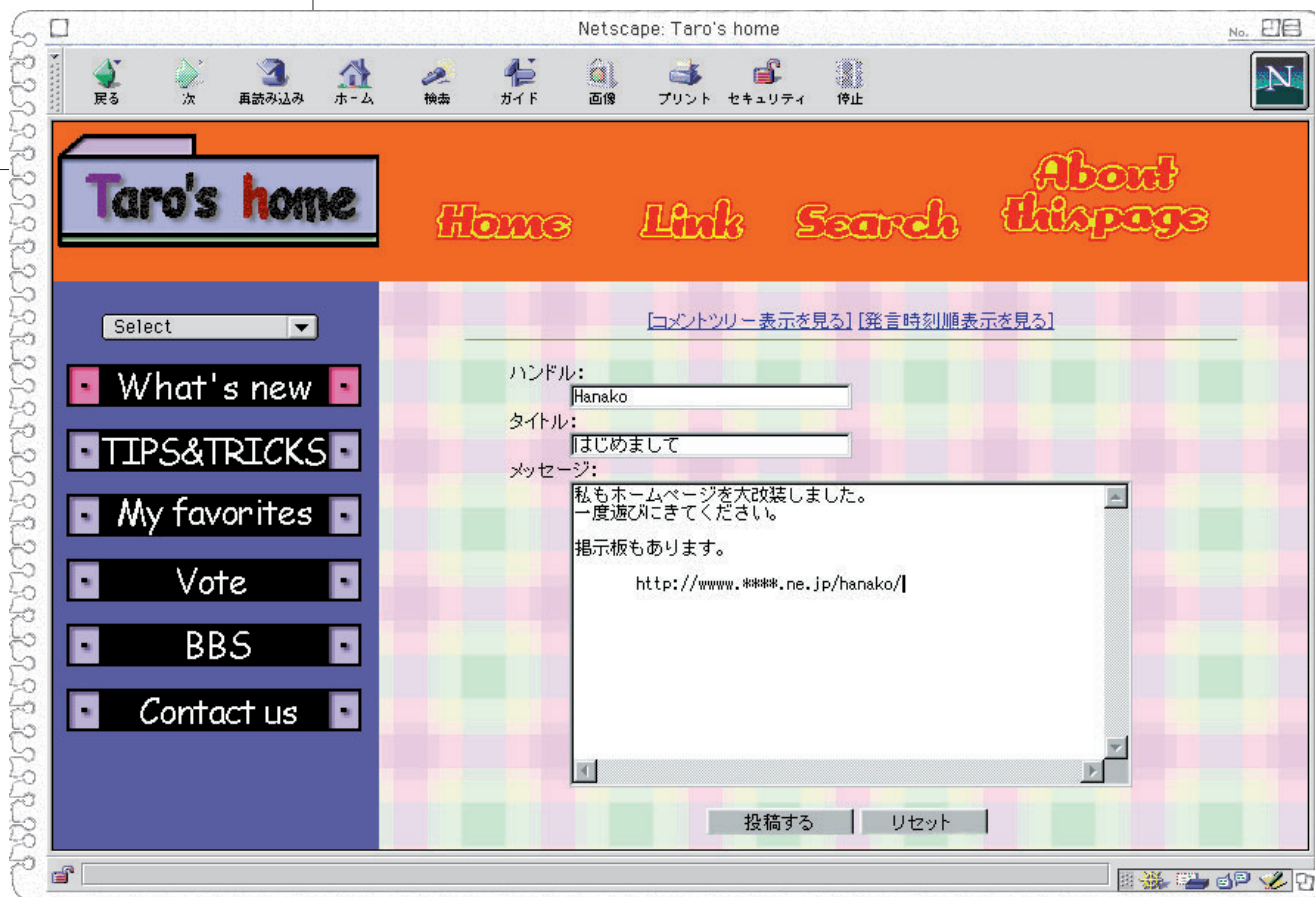
みた。それでも今のページに何かもの足りなさを感じてはいないだろうか？ 差が付くホームページ作りを目指す人のために、これ以上はないパワーアップの方法をお届けしよう。これさえ読めば、ホームページがさらに楽しく、一段とカッコよくなるはずだ。

編集部編



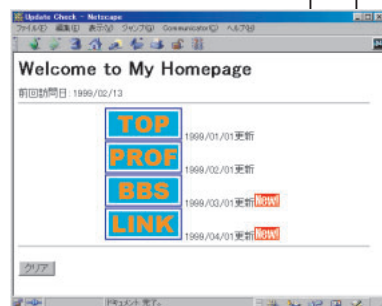
「見せる」だけではつまらない 1999年、ホームページ

これまで以上にホームページを魅力的にするにはどうすればいいだろうか？
画像を作り直したり、デザインに凝ってみたりしただけでは今までとあまり変
らないものになってしまう。今年のホームページに差を付けるものは、ペー
ジの作成者と訪れる人をダイナミックに結び付けるさまざまな「機能」だ。



クッキーを活用する

ページを読んだ相手の情報をすぐに忘れてしまうのがWWWのよい点だが、弱点でもある。この弱点を補うために発明されたのがクッキーだ。訪れた人とのつながりをさらに強くするためにクッキーを積極的に活用しよう。ページが以前に訪れた人を覚えているかのような動きを作り出せる。有名ポータルサイトのような高機能ページも夢ではない。



は「機能」で勝負！



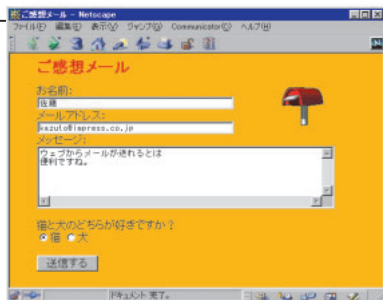
掲示板を作る

最近では高機能な掲示板サービスを提供するプロバイダーやウェブサイトが増え、自分でCGIを用意する必要はなくなった。今こそ自分のホームページに掲示板を付ける絶好のチャンスだ。ページの内容と連動した話題で参加者を集めよう。多くの人が訪れて書き込みが蓄積されていけば、個人のページも濃い情報が満載のサイトになる。

もっとインタラクティブに

いつまでも一方通行の情報ばかり載せていては、ページを見に来る人は興味をなくす。それでは「自己満足」と悪口を言われてもやむをえない。情報を発信するだけでなく、やり取りする場となつてこそホームページを持つ意味が出てくる。オープンでインタラクティブなインターネットの特長を活かせるような機能をホームページに組み込もう。読んでくれた人の感想を募集するコーナーや掲示板を設置すれば、同じ話題に関心を持つ人が自然と集まるようになる。ホームページを中心にして情報が交換されるようになれば、ただのHTMLファイルだったものが世界中の人が参加できる「場」に変わるだろう。

どんなページでも、作ればすぐにだれかの反応がほしくなるものだ。読んだ人のメッセージを送ってもらうのにもっとも手軽なのは、電子メールの機能をホームページに取り入れることだ。インターネットでもっともよく利用されているWWWと電子メールの2つを組み合わせればハイブリッドなページを作ってみよう。



読者の意見をもらう

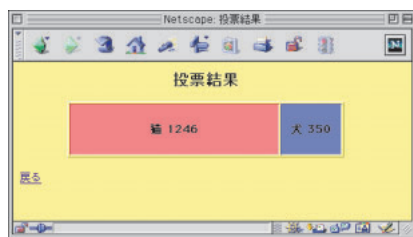
ページのスタイルにもこだわる

ページにコンテンツが増えてきたら、全体の設計を見直して、統一感のあるスタイルを追求してみよう。フレームを使う場合でもテーブルを使う場合でも、デザインに加えてナビゲーション機能にも気を配りたい。訪れた人が「このページなら情報を見つけやすい」という印象を受けるようなスタイルを考えよう。

リンクで差を付ける

ただ項目を並べただけでは、訪れた人はどこをクリックすればいいか迷ってしまう。そもそもリンクがあることもわからないかもしれない。トップページしか見てもらえないサイトでは意味がない。ホームページを生かすも殺すもリンク次第だ。用意したサブページのすみずみまで見てもらえるように、リンクに工夫をこらしてみよう。

CGIに挑戦する



ページにインタラクティブな機能を自由に付けるには、さまざまなデータをサーバー側で保存できるCGIを使うのがベストだ。CGIは難しいものとあきらめている人が多いかもしれないが、覚えるのは一定の手順だけでいい。あとはCGIプログラムを入手して手を加えれば、だれでもCGIのパワーを手に入れられる。試しに本誌の付録CD-ROMに収録したリアルタイム投票CGIを使ってみよう。



ソースコードをCD-ROMに収録

この特集で使用したサンプルのソースファイルは付録CD-ROMに収録している。ちょっと手を加えて自分のページに追加するだけでいい。最小限の手間でホームページがパワーアップだ。

だれもが操作しやすい工夫をする スマートな構成のページにしたい

ホームページの機能でもっとも重要なのが「ナビゲーション」だ。
いくら素晴らしいコンテンツを作っても、訪れた人がメニューをたどれないと意味がない。
そこで、最近の定番とも言える3つの枠(ペイン)で構成されたスタイルのページを作ってみよう。

最新のスタイルは3ペインで決まりだ

現在、人気があるサイトの多くはページを3つの部分に分けて構成しているのに気が付いているだろうか。メインメニューが記述された部分、サブメニューが記述された部分、そして実

際の情報が記述された部分という具合だ。たくさんの情報があるページでは、全体のメニューや関連するメニューが常に見えているこの形がナビゲーションに最適だ。人気サイトがこの

スタイルを取り入れている理由もここにある。自分のホームページでもコンテンツが増えてきたら、この形を取り入れてみよう。きっと読者は情報を探しやすいになるはずだ。

フレームで3ペインのスタイルを作る

3ペインのページを作るには、フレームを使うのが最適だ。トップメニューとサブメニューに対応したHTMLを用意すれば、今あるページをすぐに3ペインにできる。

このサンプルに必要なHTMLファイルは次のとおりだ。フレームの土台となるHTML(index.htm)とトップメニューのHTML(top.htm)を同じディレクトリ(フォルダー)に置く。この2つのHTMLと同じディレクトリに「new」というサブディレクトリを作る。そのディレクトリの中に、サブメニューのフレームの土台となるHTML(index.htm)と左のサブメニューとなるHTML(side.htm)を置き、さらに情報ページ(new1.htm)を1つ作っておく。

次にフレームの土台となる2つのindex.htmの内容を書こう。フレームの土台となるので、<BODY>タグの代わりに<FRAMESET>タグで全体を囲う。その中に<FRAME>タグのSRC属性でフレームの内容となるHTMLファイルを指定する。最初の土台となるindex.htmでは、sub.htmとnew/index.htmが上下に表示されるように指定する。newディレクトリの下にあるindex.htmでは、side.htmと

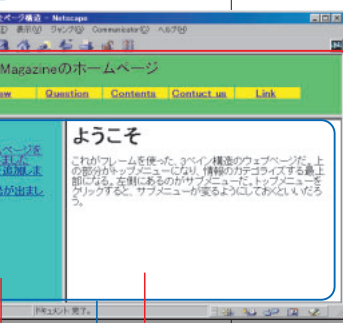
index.htm

```
<HTML>
<HEAD><TITLE>私のホームページ</TITLE></HEAD>
  上下に表示する指定   トップメニューの高さを指定
<FRAMESET ROWS="100,*">
  <FRAME SRC="top.htm" NAME="top">
  <FRAME SRC="new/index.htm" NAME="bottom">
</NOFRAMES>
このページを見るにはフレームの表示ができる
ブラウザが必要です。
</NOFRAMES>
</FRAMESET>
</HTML>
```

newの下の新index.htm

```
<HTML>
<HEAD><TITLE>サブフレーム</TITLE></HEAD>
  左右に表示する指定   サブメニューの幅を指定
<FRAMESET COLS="200,*">
  <FRAME SRC="side.htm" NAME="side">
  <FRAME SRC="new1.htm" NAME="main">
</FRAMESET>
</HTML>
```

トップメニュー



サブメニュー

情報ページ

フレームのメリットとデメリット

フレームのメリットはユーザーがリンクをたどりやすいことのほかに、作成する側にとっては、変更されることが少ないメニュー部分をあまり気にせずに、日々更新される情報ページだけに作業を集中できる点にある。デメリットは、どのページを見てもブラウザにはトップページ(<FRAMESET>タグが書

かれたHTML)のURLだけが表示され、ユーザーが今何というファイルを見ているのかがわかりにくくなる点だ。また、リンクを作る際にはどのフレームに表示させるか、あるいはウインドウ全体に表示させるのかと気を配る必要がある。実作業は少なくなるが、構成をよく考えてからページを作ろう。

new1.htm が左右に表示されるように指定する。<FRAME>タグにはすべて、フレームの内容を切り替えられるようにNAME 属性で名前を付けておく。

最後に、3ペイン構成のメニューがうまく動くように、フレームの間にリンクを貼ろう。トップページであるtop.htmには、次のようなリンクを作る。TARGET 属性の「bottom」はnewの下のindex.htmに付けた名前だ。

```
<A HREF="news/index.htm"
  TARGET="bottom">What's New</A>
```

newの下side.htmには、次のようなリンクを作る。TARGET 属性の「main」はnew1.htmに付けた名前だ。

```
<A HREF="new1.htm" TARGET="main">
  最新のニュース</A>
```

以上で3ペインのフレームページの完成だ。あとは応用でHTML ファイルやリンクを増やしていければいい。トップメニューに項目を追加しなければ、question というディレクトリーを作り、new の下と同じようにindex.htm、side.htm、question1.htm を置く。top.htm

からは、「<A HREF="question/index.htm" TARGET="bottom"」というリンクを作る。

new のサブメニューに項目を増やしたければ、同じディレクトリーにnew2.htm を置き、サブメニューを表示するside.htm から「」というリンクを作ればいい。

ソースコードと実際に表示されるページがどのような関係になっているか、左ページの図を見てしっかり理解しよう。

もっと簡単に3ペインのフレームを使う

フレームについて説明しているHTMLの参考書では、下のソースのように<FRAMESET> ~ </FRAMESET> の中にまた<FRAMESET> を書いて3ペインのフレームを作成する例が多いはずだ。左ページのサンプルでは1ページを構成するのに最少でも5つのHTML ファイルが必要だったのに比べ、これなら4つで済む。

ただし、上部のフレーム(top.htm)内のリン

クから下部の2つのフレームを一度に切り替えるには、次のようなJavaScript が必要になる。

```
<A HREF="javascript:
  parent.side.location.href = 'qa/side.htm ' ;
  parent.main.location.href = 'qa/qa1.htm ' ;
  void(0);">Question</A>
```

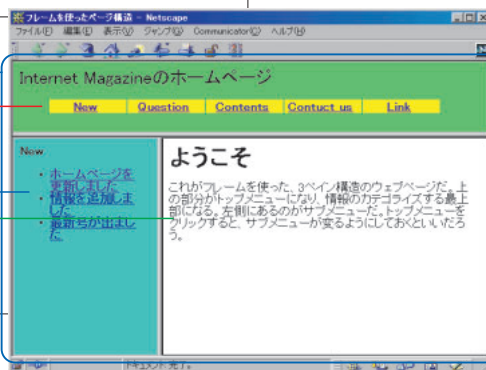
上部のフレームをトップメニューとして使わ

ずに、ロゴや広告だけを置くのに使うのなら、この作り方のほうがおすすめだ。上部のフレームにリンクを置かない場合は、デザイン上は3ペインだが機能的には2ペインのページとなる。つまり、左側がトップメニューでサブメニューなしに右側が情報ページとなるわけだ。

```
<HTML>
<HEAD><TITLE>私のホームページ</TITLE></HEAD>

<FRAMESET ROWS="100,*">
  <FRAME SRC="top.htm" NAME="top">
  <FRAMESET COLS="200,*">
    <FRAME SRC="new/side.htm" NAME="side">
    <FRAME SRC="new/new1.htm" NAME="main">
  </FRAMESET>
</FRAMESET>
<NOFRAMES>
このページを見るにはフレームの表示ができる
ブラウザが必要です。
</NOFRAMES>
</FRAMESET>

</HTML>
```



ソースの収録先

ウィンドウス
CD-ROM A Special Win Frame
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac Frame

覚えると便利！ フレームの属性

FRAMESET と FRAME 共通の属性	
BORDERCOLOR	フレームの枠線の色を「#FF8000」のように指定する。
FRAMEBORDER	フレームの枠線を表示するかどうかを「YES」または「NO」で指定する。
FRAMESET の属性	
BORDER	フレームの枠線の幅を指定する。0 にすると枠線が消える。1 番外側のFRAMESET にのみ指定できる。
FRAME の属性	
MARGINHEIGHT	枠線からフレームの内容まで上下方向にどれだけスペースを空けるか数字で指定する。
MARGINWIDTH	枠線からフレームの内容まで左右方向にどれだけスペースを空けるか数字で指定する。
NORESIZE	フレームのサイズをユーザーが変更できないようにする。「=」を付けずにタグの中にNORESIZE とだけ書く。
SCROLLING	「YES」を指定するとフレームにスクロールバーが付く。「NO」を指定するとスクロールバーを消してスクロールを禁止できる。

テーブルで3ペインのスタイルを作る

フレーム機能を使わなくても2ペインや3ペインのメニューをレイアウトできる。現在では、特にニュースなどの情報系サイトではフレームを使わないケースが多くなっている。インプレスの「インプレスウォッチ (<http://www.watch.impress.co.jp/>)」もその1つだ。フレームには168ページに挙げたような欠点があるからだろう。

フレームを使わなくても、テーブル(表組み)を使って各セルにフレームと同じような役割をさせれば、3ペインのページと同じナビゲーション機能を持つページが作成できる。

まず、HTMLの<BODY>タグのすぐ内側を<TABLE>タグで囲む。WIDTH属性を指定して幅を固定するのがポイントだ。幅を変えたい場合は、サンプルの640という数字を変えればいい。テーブルの1行目はトップメニュー用の

セルとし、2行目に2つのセルを置いて左はサブメニュー用のセル、右は情報を表示する部分のセルとする。左右のセルの幅(<TD>タグのWIDTH属性)は、合計で<TABLE>タグのWIDTH属性と同じになるようにしておく。

すべてを1つのテーブル内に置かないで、トップメニュー用のテーブルとサブメニュー用+情報表示用の2つのテーブルを上下に並べるのもよく見られる書き方だ。

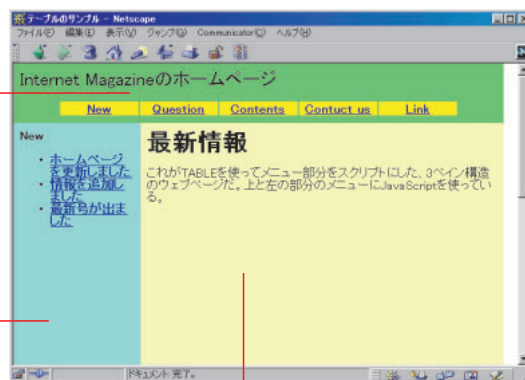
また、<BODY>タグでは、テーブルのセルがブラウザのウィンドウの枠にぴったりと収まっているように見せるために、マージンを指定する属性の値を0にする。下のサンプルでは使っていないが、テーブルを利用して3ペインのスタイルを作る場合は、背景画像やテーブル内に配置した画像を効果的に使ってデザインするといいたいだろう。

テーブルのメリットとデメリット

テーブルを使ってページを構成した場合、あまりテーブルを入れ子にして複雑にしてみようと表示に時間がかかる。またHTML内のタグはフレームよりも明らかに多くなるので、修正などで手間取るかもしれない。それでも、HTMLファイルの数がフレームの場合より少なくなるぶん管理はしやすいはずだ。

フレームと比べたときのデメリットは、メニューなど各ページで共通の部分に追加や削除の必要がある場合、すべてのHTMLファイルを修正する必要が出てくることだ。ページ数が多いサイトでは苦勞することも覚悟なくてはならない。

```
<BODY TOPMARGIN=0 LEFTMARGIN=0
  MARGINHEIGHT=0 MARGINWIDTH=0>
<TABLE WIDTH=640 BORDER=0 CELLSPACING=0 CELLPADDING=8>
<TR>
  <TD BGCOLOR="#60FF60" COLSPAN=2 VALIGN=TOP>
    トップメニュー用のセル
  </TD>
</TR>
<TR>
  <TD WIDTH=150 HEIGHT=800 BGCOLOR="#60FFFF" VALIGN=TOP>
    サブメニュー用のセル
  </TD>
  <TD WIDTH=490 HEIGHT=800 BGCOLOR="#FFFC0" VALIGN=TOP>
    情報用のセル
  </TD>
</TR>
</TABLE>
</BODY>
```



自分の情報に合ったメニューを作り上げる

ウェブではどのページからでも好きなページにリンクできる。しかし、どのようにリンクを配置すれば、見ている人が見たい順番に情報に本当にたどり着けるのだろうか? ページ数が多くなればなるほどこの問題は難しくなる。

そこで、身近にある自分のコンピュータを見てもみよう。ホームページにファイルを置くのも、要領はハードディスクの整理と同じだ。アプリケーションならアプリケーションごとに、仕事

のファイルならプロジェクトごとに同じ系列でフォルダーに整理するだろう。自分が持っている情報も、まずおおまかなカテゴリーに分けてみる。ある情報が1ページに収まりきらなければ、さらにカテゴリーに分ける。

こうして情報を分類するとホームページのツリー構造ができあがる。この状態から上位のカテゴリーを「メインメニュー」とし、その下のカテゴリーを「サブメニュー」、実際の情報を

「情報ページ」とする。これでフレームやテーブルで表すのに適した3階層のメニュー構造ができあがる。

さらにこの下を細かく分類してメニューにすることもできるが、見る人はおそらく混乱することになるだろう。自分の見ている情報が3階層目のページなのか4階層目のページなのか判断が付きにくく、以前の階層に戻るのに何回戻れればいいかわからなくなってしまうからだ。

JavaScriptを活用して手間を省く

フレームを使わずにテーブルを使ってページを作ると、メニューを修正するときにいくつものページを直す作業が必要になる。複数のHTMLファイルで共通の部分を1つのファイルですませられれば、手間が省けて楽だ。それにはJavaScriptを使って共通するタグを自動的に書き込むようにすればいい。

まず、HTMLファイルとは別に拡張子が「.js」のテキストファイルを作り、その中にJavaScriptを書く。具体的には、共通の部分となるHTMLの行をJavaScriptの文字列に直してサンプルのように「source[数字]=」の後に書いていき、

一番上の行の「sourcenumber =」で埋め込む行数を指定する。JavaScriptの文字列にするときには、「」を「¥」に変える。次に、HTMLファイルには埋め込みたい位置に空の<SCRIPT>タグを書いてSRC属性に「.js」ファイルの名前を指定する。

この方法ならメニューページなど共通する部分の使いまわしが簡単にできる。ただし、ネットスケープナビゲーター、IEともに<SCRIPT>タグのSRC属性をサポートしているのは3.0以上なのでブラウザが限定される。また、HTMLのタグをJavaScriptの文字列に書き換

える作業がやや面倒だ。

なお、JavaScriptを使う方法のほかに、HTMLファイルをサーバー上で処理させる「Server Side Include (SSI)」を使っても同じことができる。HTML内に以下のようなSSI呼び出しの命令を1行書くだけで、ページの途中にmenu.htmの内容を埋め込める。

```
<!--#include file="menu.htm"-->
```

ただし、SSIにはセキュリティ上の問題が発生しやすいため、サポートしているプロバイダーは少ない。

index.htm

```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript1.2" SRC="topmenu.js">
</SCRIPT>
```

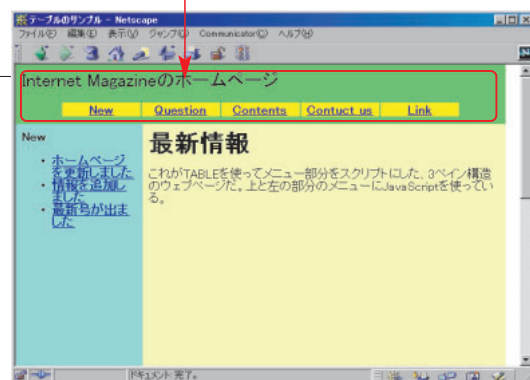
topmenu.js

```
//ソースの行数を指定する
sourcenumber = 10;
source = new Array(sourcenumber);

//ソースの内容を記述する
source[0] = "<FONT SIZE=5>Internet Magazineのホームページ</FONT>";
source[1] = "<TABLE BORDER=0 ALIGN=CENTER>";
source[2] = "<TR BGCOLOR=¥#FFFF00¥" ALIGN=CENTER>";
source[3] = " <TD WIDTH=100><A HREF=¥new/index.htm¥>New</A></TD>";
source[4] = " <TD WIDTH=100><A HREF=¥qa/index.htm ¥>Question</A></TD>";
(中略)
source[9] = "</TABLE>";

//実際の書き込み処理
for(i = 0 ; i < sourcenumber ; i++) document.write(source[i] + "¥n");
```

共用するソース



ソースの収録先

ウィンドウズ
CD-ROM A Special Win Table
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac Table

ページサイズと読みやすさ

ページのサイズについて考えてみよう。HTMLは基本的に見る人の環境（ブラウザのウィンドウサイズ）に合わせて表示される。ひと昔前までは、ノートパソコンのディスプレイに合わせてVGA（640×480ピクセル）の横幅で収まるように作るのが定石だった。現在は状況も変わり、ポータルサイトではデスクトップパソコンの画面を埋め尽くすようなレイアウトも登場している。もちろん、レイアウト

は表示される情報量にも依存している。大量の情報を扱うときには面積を多く取るざるをえないが、うまく分類してメニューを作れば、それほど多くの面積が必要になることはない。

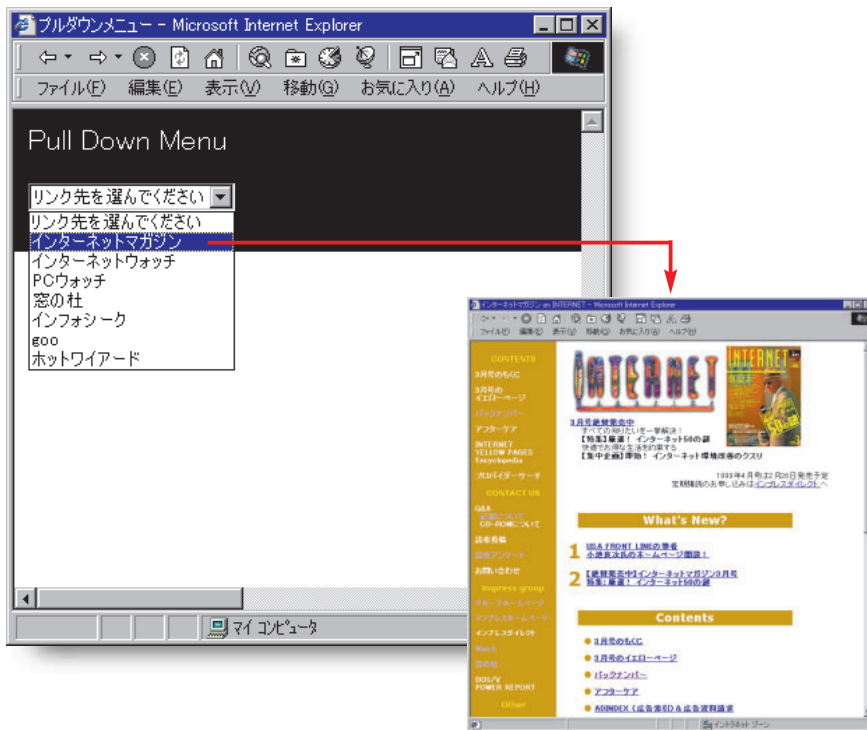
それよりも、文章を読ませることを目的にしているなら、文字のほうに気を配るのが重要だ。もし1行が画面いっぱい広がっていたらどうだろうか。とても読みにくいはずだ。読物的なページでは、幅を指定したテーブルタグ

の中に文字を入れて読みやすくしていることが多い。もっと突き詰めていけば、文字の大きさや行間をコントロールできるCSS（スタイルシート）の導入も検討してはいいだろう。スタイルシートでも上記のJavaScriptの例と同じように、外部ファイル（拡張子「.css」）を作って複数のページで使う文字の大きさや行間が設定できる。こだわる人は一度ためてほしい。

思わずクリックしたくなる ひと味違うリンクを作りたい

ウェブページのウェブページたるゆえんは「リンク」にある。
そしてどんなウェブサイトにも必ず「リンク集」がある。「たかがリンク」とあなどってはいけない。
このリンクをもっと高機能なものにすればページ全体の見栄えや使い勝手が変わるはずだ。

プルダウンメニューでコンパクトなリンク集を作る



pulldown.htm

```
<FORM>
<SELECT onChange="location=this.options[this.selectedIndex].value">
  <OPTION SELECTED> リンク先を選んでください
  <OPTION VALUE="http://internet.impress.co.jp/">インターネットマガジン
  <OPTION VALUE="http://www.watch.impress.co.jp/internet/">インターネットウォッチ
  <OPTION VALUE="http://www.watch.impress.co.jp/pc/">PCウォッチ
  <OPTION VALUE="http://www.forest.impress.co.jp/">窓の杜
  <OPTION VALUE="http://www.infoseek.co.jp/">インフォシーク
  <OPTION VALUE="http://www.goo.ne.jp/">goo
  <OPTION VALUE="http://www.hotwired.co.jp/">ホットワイアード
</SELECT>
</FORM>
```

JavaScript部分はそのまま入力
プルダウンメニューに表示させる文字列
リンク先のURL

ソースの収録先 
ウィンドウズ
CD-ROM A Special Win Link PULLDOWN.HTM
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac Link PullDown.htm

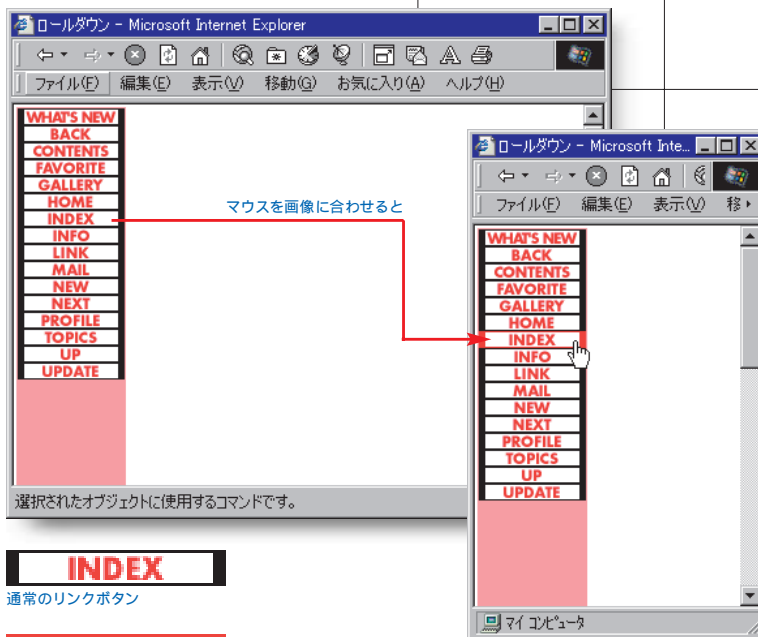
マウスを載せたときにリンクボタンの色を変える

リンクをボタンなどの画像にした場合、読者がウェブページを見てはたしてそこがただの画像なのかリンクなのか分からないことがある。このような場合、マウスをリンクボタンに合わせたときにリンクボタンの色や形が変わるようにしておけば、そこが何かの「ボタン」だといえることがはっきりわかる。

この仕掛けには通常の状態に表示される画像とマウスが載ったときに変化する画像をペアで使うので、必要な数だけ用意しておこう。

HTML ファイルは下図のようになる。ヘッダー部分のJavaScript はおまじないだと思えばいい。1つだけ注意したいのは用意するリンクボタンの数だ。このHTML で「15」（青い文字）となっている数は、リンクボタンの数（右の画面では16個のリンクボタン）より1つ少ない数となっている。自分が用意したボタンの数から1を引いた数に書き換えよう。

画像のファイル名は、通常表示させるものは「LinkX.gif」（Xは0から15までの数字）とし、マウスが載ったときに表示させるものは「ULinkX.gif」としておく。ボディー部分の<A>タグ内の青の数字が画像のファイル名（先ほどのX という数字）に対応しているので、同じ数字（この例では0から15まで）を指定しよう。



ソースの収録先

ウィンドウズ

CD-ROM A Special Win Link IMGLINK.HTM

マッキントッシュ

CD-ROM A Special Mac Link Imglink.htm

imglink.htm

```
<HEAD>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
  ULink = new Array();
  for (i = 0; i <= 15; i++) {ULink[i] = new Image(); ULink[i].src = 'ULink' + i + '.gif';}
  function Linkl (n) {document.images['Link' + n].src = ULink[n].src;}
  function LinkO(n) {document.images['Link' + n].src = 'Link' + n + '.gif';}
</SCRIPT>
</HEAD>

<BODY>
<A HREF="http://www.impress.co.jp/" onMouseOver="Linkl(0);" onMouseOut="LinkO(0);">
  <IMG SRC="Link0.gif" NAME="Link0" BORDER=0 ALT="WatsNew">
</A><BR>
省略
<A HREF="http://www.impress.co.jp/" onMouseOver="Linkl(15);" onMouseOut="LinkO(15);">
  <IMG SRC="Link15.gif" NAME="Link15" BORDER=0 ALT="Update">
</A>
</BODY>
```

ヘッダー部分

ボディー部分

リンクの項目より1つ少ない数（例の場合、WHAT'S NEWからUPDATEまで16）

リンクボタンにマウスが載ったときに新しい画像を表示させる関数

リンクボタンからマウスが離れたときに新しい画像を表示させる関数

マウスがリンクボタンに載った関数Linkl(0)を呼び出す

マウスがリンクボタンから離れたら関数LinkO(0)を呼び出す

初期状態に表示される画像

画像のファイル名に注意!

ここで紹介した内容は画像のファイル名とHTML内に書いてあるファイル名との対応が重要になる。さらに、画像には数字の入ったファイル名を使わなければならない。もし、ファイル名を変えなければHTML内の「ULink'+i+'.gif」と「Link'+i+'.gif」の「ULink」や「Link」の部分を変更したファイル名に変えておこう（iは数字を意味しているのでそのままにしておく）。

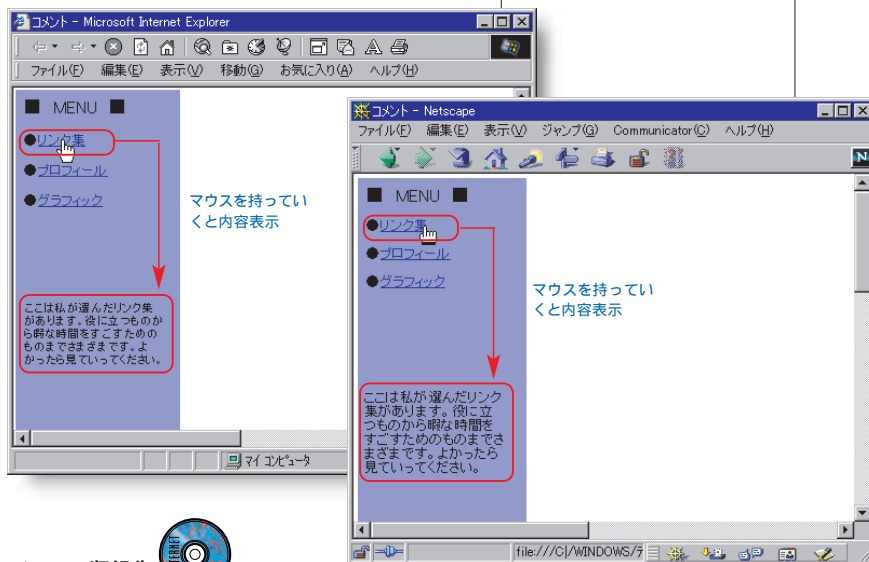
マウスを載せたときにリンクの説明を表示させる

リンクをクリックする前にリンク先ページの内容がわかれば、読者は自分に必要のないページを見てまわる必要がなくなる。そこでここでは、リンクにマウスを載せるとウェブページ内の特定の場所に、そのリンク先の簡単な説明を表示させるという仕掛けを紹介する。

これを実現するHTMLファイルは下のようになる。ヘッダー部分のJavaScriptでは、IE4.0とネットスケープナビゲーター4.0とで処理の仕方を変えている。なぜなら今回の仕掛けはIEとネットスケープナビゲーターで同じ方法が使えないからだ。この部分に関してはこのまま記述してほしい。

ボディー部分の<A>タグ内のonMouseOver以下の部分が、マウスを載せたときに表示させるリンクの説明を記述するところだ。「Message ()」の括弧内に「（シングルクォーテーション）で囲んだものが表示内容となる。

実際に説明を表示させるウェブページ内の場所の指定はIEとネットスケープナビゲーターで異なる。<DIV>タグ部分がIEのための表示場所の指定方法で、top、left、widthはそれぞれ表示場所の上からの距離と左からの距離、そして表示場所の横幅をピクセルで指定している。<LAYER>タグ部分がネットスケープナビゲーターのための表示場所の指定方法で、TOP、LEFT、WIDTHは<DIV>と同様に表示場所の上からの距離と左からの距離および表示場所の横幅をピクセルで表している。それぞれの数字を調整すれば好みの場所に説明を表示させられる。うまくいくまで何度か試してみしてほしい。



ソースの収録先
ウィンドウズ
CD-ROM A Special Win Link COMMENT.HTM
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac Link Comment.htm

comment.htm

```
<HEAD>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
var ver = navigator.appVersion.charAt(0);
var ie = 0, nn = 0;
if(navigator.appName == "Netscape") nn = 1;
if(navigator.appName == "Microsoft Internet Explorer") ie = 1;
function Message(s){
  if(ie && ver >= 4) {infobox.innerHTML = s;}
  else if(nn && ver >= 4) {document.infobox1.document.open();
    document.infobox1.document.write(s);
    document.infobox1.document.close();}
}
</SCRIPT>
</HEAD>
<BODY>
<A onMouseOver="Message('ここは私が選んだリンク集があります。役に立つものから
暇な時間をすごすためのものまでさまざまです。よかったら見ていってください。')"
onMouseOut="Message('')\" HREF="link.html">リンク集</A><BR><BR>
<DIV ID="infobox"
  STYLE="position:absolute; top:200px; left:10px; width:130px; font-size:8pt;" >
</DIV>
<LAYER NAME="infobox1" TOP=200 LEFT=10 WIDTH=130></LAYER>
</BODY>
```

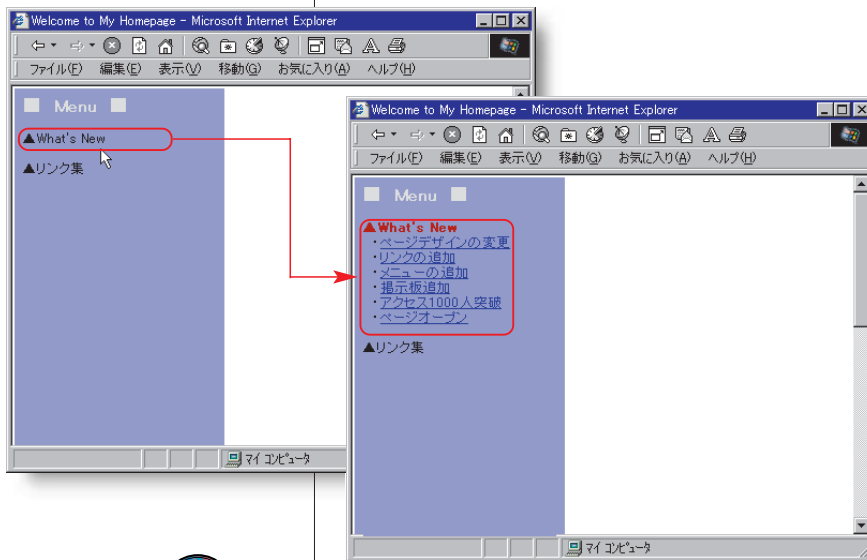
ネットスケープナビゲーターの場合
IEの場合
sの内容を表示させる関数
IE4.0の場合 infoboxにsの内容を表示
ネットスケープナビゲーター4.0の場合 infobox1にsの内容を表示
マウスがリンクの上に載ったとき
表示させる内容
マウスがリンクから外れたとき
IEのためのコメント表示領域
ネットスケープナビゲーターのためのコメント表示領域

ワンクリックでサブメニューを表示させる(IE 4.0 以上のみ)

プルダウンメニューのところでも触れたが、リンクが増えるとそれを表示させるのに場所がとられてしまう。そこでここでは普段はサブメニューを隠しておいて、カテゴリ名をクリックしたときだけサブメニューを表示させるという方法を紹介しよう。

右図ではメニューの「What's New」というテキストをクリックするとサブメニューが表示され、メニューテキストが赤くなって書体が太字になる様子を表している。残念ながらこの仕掛けだけはネットスケープナビゲーターでは実行できない。IE4.0のみの対応となる。

HTMLは以下のとおりになる。ヘッダー部分にはサブメニューを表示させる命令とメニューテキストの色と書体を変更する命令が書かれている。ボディ部分はサブメニューの領域とサブメニューを含むメニュー全体の領域を<DIV>タグを二重に使う指定している。内側の<DIV>タグがマウスを載せたときに表示させるサブメニューの内容だ。



ソースの収録先

ウィンドウズ
CD-ROM A Special Win Link TREE.HTM
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac Link Tree.htm

tree.htm

```
<HEAD>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
function tree (a, b) { if (a.style.display == 'none') {
    a.style.display="";
    b.style.color="#AA0000";
    b.style.fontWeight="bold";
} else {
    a.style.display='none';
    b.style.color="Black";
    b.style.fontWeight="normal";
}
}
</SCRIPT>
</HEAD>
<BODY>
<DIV onClick="tree(T1, MENU1)">
  <FONT ID="MENU1" STYLE="color:black;font-weight:normal"> What's New</FONT>
  <DIV ID="T1" STYLE="display:none;">
    • <A HREF="main1.htm">ページデザインの変更</A><BR>
    • <A HREF="main2.htm">リンクの追加</A><BR>
    • <A HREF="main3.htm">メニューの追加</A><BR>
    • <A HREF="main4.htm">掲示板追加</A><BR>
    • <A HREF="main5.htm">アクセス1000人突破</A><BR>
    • <A HREF="main6.htm">ページオープン</A>
  </DIV>
</DIV>
</BODY>
```

サブメニューの表示
メニューテキストの色の変更
メニューテキストの書体の変更
サブメニューの非表示
メニューテキストの色を戻す
メニューテキストの書体を戻す
メニューテキストをクリックする動作を定義
初期状態は非表示
表示するサブメニュー

インタラクティブなしかけに挑戦 読者の声を集めたい

ただ読ませるだけのホームページはもうつまらない。
インタラクティブな機能を持たせたホームページ作りの第一歩として
訪れた人に自分のページの感想を電子メールで送ってもらう機能を追加してみよう。

フォームから電子メールを送信する

ホームページから読者に意見を送ってもらうにもっとも手軽なのは、フォームから電子メールを送信させる方法だ。特にFORMタグのACTION属性にメールアドレスを指定する方法なら、CGIを使わなくてもHTMLを書くだけでできる。

ポイントは、FORMタグの属性に「`ENCTYPE="text/plain"`」も指定することだ。フォームを使ったメール送信では、何も指定しないと日本語が「%83e%83X%83g」のようにエンコードされてしまい、専用のデコードツールを使わないと読めなくなる。この属性を指定すれば、ふつうに読める文字で電子メールが送られる。また、作成したHTMLファイルを保存するときは、「秀丸エディタ」などのテキストエディターで文字コードをJIS（ISO-2022-JP）にしておけば、正しい文字コードのメールが送信できる。

ただし、この方法で確実にフォームから電子メールを送信できるブラウザは、ネットスケープナビゲーター3以上とIE4.0とアウトLOOKエクスプレスの組み合わせだけだ。



```
<FORM METHOD=POST  
  ACTION="mailto:****@****.ne.jp"  
  ENCTYPE="text/plain">  
<P>ご意見・ご感想:<BR>  
<TEXTAREA ROWS=5 COLS=40 NAME="iken">  
</TEXTAREA>  
<P>あなたの好きなものは？  
<INPUT TYPE=RADIO NAME="animal" value="猫">猫  
<INPUT TYPE=RADIO NAME="animal" value="犬">犬<BR>  
<P><INPUT TYPE=SUBMIT VALUE="送信する">  
</FORM>
```

必ずPOSTを指定
mailto:のあとに自分のメールアドレスを記述
この指定によって、
簡単に読める電子メールが届く

ソースの収録先
ウィンドウズ
CD-ROM A Special Win Mail
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac Mail

「このページを友達に紹介」ボタンをつける

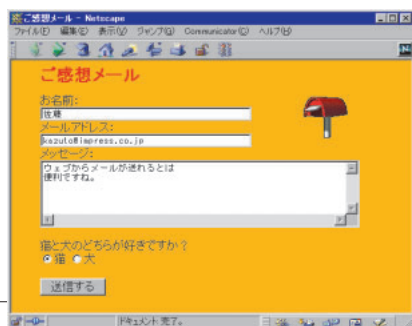
```
<FORM METHOD=POST ACTION="" ENCTYPE="text/plain"  
  onSubmit="this.action='mailto:'+this.email.value;this.submit();">  
  お友達のメールアドレス:<BR>  
<INPUT TYPE=TEXT NAME="email" SIZE=40><BR>  
<INPUT TYPE=HIDDEN NAME="msg"  
  VALUE="このページ見てください！">  
<INPUT TYPE=HIDDEN NAME="url" VALUE="http://internet.impress.co.jp/">  
<INPUT TYPE=SUBMIT VALUE="送信する">  
</FORM>
```

送信先を変える
JavaScript

ホームページのURL

左のHTMLソースは、電子メールを送信するフォームにJavaScriptを加えて、入力されたメールアドレス宛てに電子メールを送信するようにしたものだ。これを使えば、訪れた人が自分のページを気に入ってくれたら友達にもURLを電子メールで知らせるという機能を追加できる。ただし、このスクリプトを使うと、ネットスケープナビゲーターのバージョン4ではJavaが起動して送信まで時間がかかるので注意。

プロバイダーのメール送信サービスを使う



左ページのように、FORMタグのACTION属性にメールアドレスを指定する方法では、どうしてもブラウザや電子メールソフトの種類やバージョンが限定される。そこで、プロバイダーが会員用に用意しているCGIサービスを使ってみよう。どんなブラウザにも対応したメール送信フォームが作れるので便利だ。自分でCGIプログラムを書く必要もない。

プロバイダーのマニュアルに従ってフォームを作成するだけだ。下のサンプルはNIFTY

SERVEの例だが、左ページのサンプルにあるACTION属性の「mailto:～」という部分を「http://～」というプロバイダーが用意したCGIプログラムのURLに変えている。また、宛て先や件名などは、プロバイダーが指示するとおりに<INPUT>属性で設定しないとうまく送信できないので注意しよう。

メール送信などのCGIサービスが利用できる主なプロバイダーについては下記の表を参考にしてほしい。

NIFTY SERVEの例

```
<FORM METHOD=POST
  ACTION="http://mdec.nifty.ne.jp/cgi-bin/mdecmail.cgi">
<INPUT TYPE=HIDDEN NAME="ok_page"
  VALUE="http://member.nifty.ne.jp/****/thank.html">
<INPUT TYPE=HIDDEN NAME="to_mail" VALUE="****@nifty.ne.jp">
<INPUT TYPE=HIDDEN NAME="sub" VALUE="感想メール">
お名前: <BR><INPUT TYPE=TEXT NAME="name" SIZE=40><BR>
メールアドレス: <BR><INPUT TYPE=TEXT NAME="from" SIZE=40><BR>
メッセージ: <BR><TEXTAREA NAME="body" ROWS=5 COLS=60>
</TEXTAREA><BR>
猫と犬のどちらが好きですか? <BR>
<INPUT TYPE=RADIO NAME="animal" value="cat">猫
<INPUT TYPE=RADIO NAME="animal" value="dog">犬<BR>
<INPUT TYPE=SUBMIT VALUE="送信する">
</FORM>
```

プロバイダーのCGIプログラムのURL

送信後に表示されるページのURL

送信先のメールアドレス

メールの件名

送信者の名前入力欄

送信者のメールアドレス入力欄

メッセージ入力欄

自由に追加できる項目

青字はプロバイダーによって設定する文字列が異なるので注意。

主なプロバイダーのCGIサービス

	アクセス カウンター	メール送信	掲示板	その他	ユーザーが作成 したCGI
3Web		x	x		
AIR インターネット			x		
ALLESNET		x	x		x
ASAHIネット			x		x
AT&T WorldNet			x		x
BEKKOAME/INTERNET			x		x
BIGLOBE				アクセス制御	
DREAM NET		x	x	アンケート	x
DTI		x			x
harmonix			x		
Highway Internet					x
IJ4U		x	x		x
InfoSphere				チャット、全文検索、投票システム	x
InfoWeb			x		
INTERLINK			x		
JustNet		x	x		x
NIFTY SERVE				メーリングリスト参加フォーム	x
OCNダイヤルアクセス		x	x		x
ODNダイヤルアップ			x		x
Panasonic Hi-HO					
SANNETインターネットサービス			x		x
So-net			x		x
The FSI Network			x		x
ドルフィンインターネット		x	x		
ネットラビュタ					
ぶらら				アンケート	x

ホームページに読者が集まる 掲示板で情報交換したい

読者が集まってさまざまな情報を交換する掲示板は、最近のホームページの花だ。掲示板と言えばCGIを連想する人も多いだろうが簡単に利用できる掲示板サービスが増えてきた今、だれでも簡単に開設できる。

プロバイダーの掲示板サービスを使う

加入しているプロバイダーが会員用に掲示板サービスを用意しているなら、それを利用するのがもっとも手軽だ。掲示板サービスを提供しているプロバイダーについては、前ページの表を参照してほしい。たいいては無料で利用できるが、BIGLOBEのように追加料金がかかるプロバイダーもある。

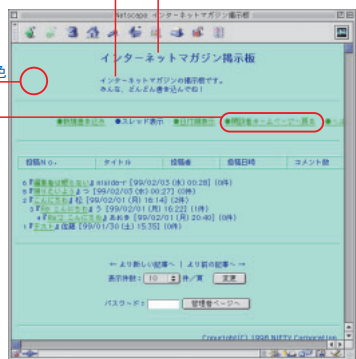
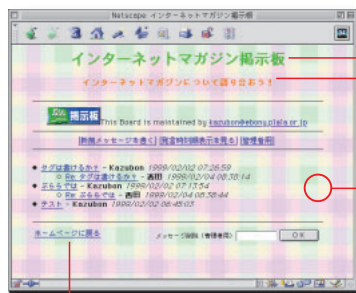
以下の例は、NIFTY SERVE とぶららのものだが、どちらもウェブ上から簡単に新規作成や

設定の変更、発言の削除ができる。Panasonic Hi-HOのように、自分でHTML ファイルを修正しなければならないが、その代わり画面を自由に変更できる掲示板もある。

また、掲示板を使う際には、文字の色や背景画像の設定機能のほかに、いくつかの発言などをチェックしてから利用を決めよう。

NIFTY SERVE

URL <http://www.nifty.ne.jp/>



ぶらら

URL <http://www.plala.or.jp/>

無料の掲示板サービスを使う

プロバイダーの掲示板サービスは手軽で使いやすいが、先に紹介したメール送信サービスに比べてサポートしているプロバイダーは少ない。加入しているプロバイダーにサービスがなく、自分でCGIプログラムを設置することもできない場合は、無料で掲示板サービスを提供しているサイトを利用しよう。第二、第三の掲示板を作るために使うのもいいだろう。こうしたサービスでは、利用が無料である代わりに掲示板の画面に広告が表示される。

無料掲示板サービスの中でも有名なのが「Tea Cup」で、カテゴリ別に分けられた掲

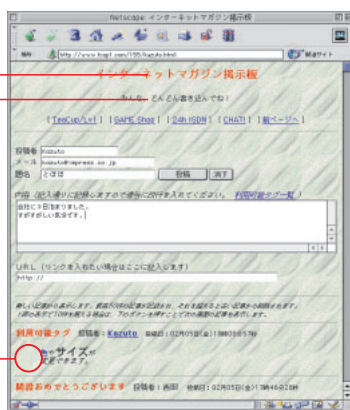
Tea Cup

URL <http://www.tcup.com/>



示板のリンク集やチャットコーナーも用意されている。「掲示板ネット」では、発言の横に表示されるアイコンを選べる顔付き掲示板がウリだ。Tea Cupと掲示板ネットの両サービスには、無料掲示板より機能が強化された有料掲示板（一月あたり100円から200円程度）も用意されている。

掲示板を使う際に注意することは、第三者による悪質な内容の書き込みだ。掲示板を開いている人は、書き込まれた内容をこまめにチェックしよう。

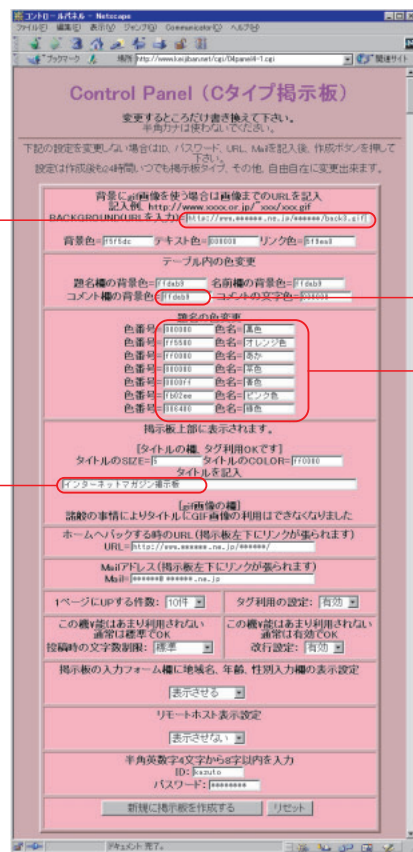


背景画像

顔のアイコンを選ぶ

掲示板ネット

URL <http://www.keijiban.net/>



題名の色を7つ指定

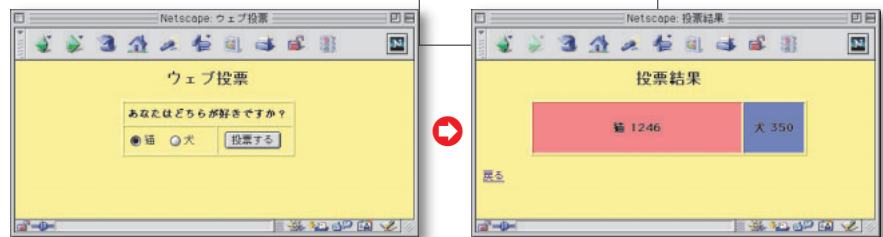
背景色

ホームページ作りの最終兵器CGIを使う リアルタイムに内容を更新したい

HTMLやJavaScriptだけでは、読者の反応はどうやっても保存されない。サーバーに情報を残すには、どうしてもCGIが必要だ。アクセスカウンターやメール送信ならプロバイダーが用意してくれるが、オリジナリティーを出したいならCGIにチャレンジしてみよう。

読者投票ページを作る

読者が意見を二者択一で投票すると、集計結果が自動的に表示されるページがあれば面白い。ここでは本誌の付録CD-ROMに収録したCGIプログラムを使って、ウェブ上でリアルタイムに結果が表示される投票ページを作ってみよう。手順どおりにやってみれば、それほど難しくないことがわかるだろう。



1 プロバイダーのサービスを確認する

まず、自分のプロバイダーがユーザーの作ったCGIプログラムの設置を許可しているかどうかを確認しよう。このページのサンプルが有効なのは、ユーザーのCGIを許可しているプロバイダーに限られる。プロバイダーがユーザーのCGIを許可していたら、次のことをプロバイダーに確認しよう。

- Perlのパス
- CGIプログラムを設置する位置（ディレクトリー）が指定されているかどうか
- .htaccessファイルが必要かどうか

2 必要なファイルを編集する

サーバーにアップロードするCGIプログラムのファイルと関連するファイルを用意しよう。本誌の付録CD-ROMに収録したvote.cgi（CGIプログラム）、vote.htm（投票ページ）、vote.txt（データファイル）の3つのファイルをハードディスクにコピーし、vote.cgiをテキストエディターで開いて必要であればPerlのパスを変更する。また、vote.htmを開いてFORMタグのACTION属性で指定されているCGIプログラムのURLを必要に応じて変更する。

ソースの収録先
ウィンドウズ
CD-ROM A Special Win CGI
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac CGI

vote.cgi

```
#!/usr/local/bin/perl
```

Perlのパスをプロバイダーが指定したものに変わる。

vote.htm

```
<FORM METHOD=GET ACTION="vote.cgi">
```

CGIプログラムのURLは、HTMLファイルと同じ位置に置ける場合はそのまま、そうでない場合は、プロバイダーの指示に従って「/cgi-bin/usr/username/vote.cgi」などとなる。

ユーザーのCGIプログラムを設置できるプロバイダー

	perlのパス	.htaccess	場所	パーミッション
3Web	/usr/local/bin/perl	必要	public_html	自分で変更
AIRインターネット	/usr/local/bin/perl	必要	public_html	自分で変更
BIGLOBE	/usr/local/bin/perl	不要	自由	自分で変更
harmonix	/usr/local/bin/perl	不要	自由	プロバイダーに変更してもらう
InfoWeb	/usr/local/bin/perl	不要	要問い合わせ	自分で変更
INTERLINK	要問い合わせ	不要	要問い合わせ	自分で変更
KCOM	/usr/local/bin/perl	不要	public_html	自分で変更
Panasonic Hi-HO	/usr/local/bin/perl	不要	cgi-bin	自動的に変更
ドルフィンインターネット	/usr/local/bin/perl	不要	自由	自分で変更
ネットラビュタ	/usr/local/bin/perl	不要	要問い合わせ	自分で変更
リムネット	要問い合わせ	要問い合わせ	要問い合わせ	要問い合わせ

投票の項目を変えるには

CD-ROMに収録したファイルでは、投票の項目は「猫」と「犬」になっているが、vote.htmとvote.txtを書き換えれば、「ラーメン」と「カレー」など好きな項目に変更できる。

vote.htm

```
<INPUT TYPE=RADIO NAME="opt"
VALUE="1">猫 ラーメン
<INPUT TYPE=RADIO NAME="opt"
VALUE="2">犬 カレー
```

vote.txt

```
猫 0 ラーメン
犬 0 カレー
```

3 ファイルをアップロードする

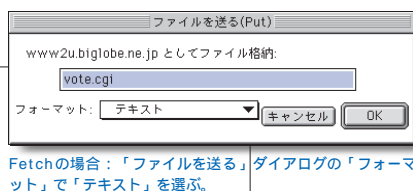
用意ができたなら、FTPソフトを使ってvote.cgi、vote.htm、vote.txtの3つのファイルをプロバイダーのサーバーにアップロードする。ここではFTPソフトとしてウィンドウズではNextFTPで、マッキントッシュではFetchで説明する。

CGIプログラムとHTMLファイルを置く場所が分かっているプロバイダーではvote.cgiと

vote.txtをCGI用のディレクトリー（フォルダー）に置き、vote.htmをHTML用のディレクトリーに置く。位置が指定されていないプロバイダーでは3つのファイルを同じディレクトリーに置く。

vote.cgiとvote.txtをアップロードする際には、FTPソフトのファイル転送モードを必ず「テキスト」にしておかないとうまく動作しないので注意しよう。サーバーとパソコンでは使用している文字コードや改行コードが違うためだ。

FTPソフトのテキストモード



.htaccess ファイルの用意

プロバイダーによっては、「.htaccess」というファイルをサーバー上に置かないとCGIプログラムが起動しない場合がある。次のような内容のテキストファイルを作成し、適当な名前を付けてアップロードしてから、FTPソフトで「.htaccess」というファイル名に変更しよう。

AddType application/x-httpd-cgi .cgi

NextFTP 収録先

CD-ROM A Win Nextftp

Fetch 収録先

CD-ROM A Mac Fetch-J

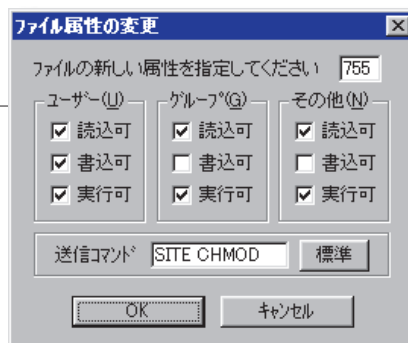
4 ファイルのパーミッションを変える

サーバーに置かれたHTMLファイルは単に読み込まれるだけだが、CGIを使う場合はファイルを実行したり書き込んだりできるようにFTPソフトでパーミッション（ファイルの属性）を変更する必要がある。CGIプログラムのvote.cgiでは、プログラムが起動できるように、ユーザー（オーナー）、グループ、その他（全

員）の実行（Execute）をオンにする。データファイルのvote.txtでは、投票結果が書き込めるようにグループとその他（全員）の書き込み（Write）をオンにする。これでウェブ投票ページは完成だ。

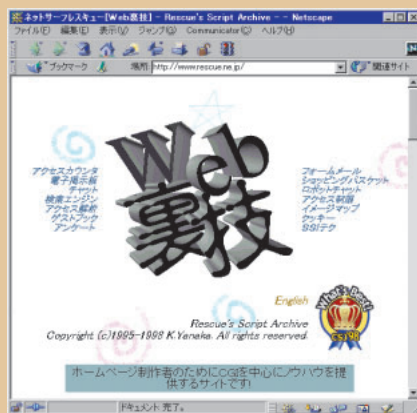
この設定を正しく行っていないと、CGIを実行したときにサーバーエラーが起こる。もし、サーバーエラーが起こったならば、まず最初にファイルの属性を確かめてみよう。

パーミッションの変更



フリーのCGIプログラムを利用しよう

自分でCGIプログラムを書くのはたいへんだ。Perlなどのプログラミング言語やUNIXの知識が必要になるからだ。勉強しているひまはないという人は、ウェブ上で公開されているフリーのCGIプログラムをダウンロードして使うといいだろう。CGI関連サイトの中でも有名なのが「ネットサーフレスキュー Web裏技」だ。アクセスカウンターから掲示板やチャットまでさまざまなCGIプログラムが利用法の説明とともに公開されている。また、メール送信CGIのサービスも行っている。本誌で説明したCGIプログラムの設置がうまくいったら、次はぜひこのサイトへ行って新しいCGIプログラムを試してみよう。



見る人に合わせてページをカスタマイズ クッキーでパーソナライズされた ページを作りたい

ホームページを作る際にはページを見る人への配慮が必要だが、不特定の人を相手にするわけだから配慮といっても限界がある。そこで、ここではページを見る人ごとに表示する内容を変化させたり見る人の側でページをカスタマイズしたりする「パーソナライズ」の機能にチャレンジしてみよう。

ソースの収録先

ウィンドウズ
CD-ROM A Special Win Cookie
マッキントッシュ
CD-ROM A Special Mac Cookie



クッキーの仕組みを理解しよう

ウィンドウズのオンラインソフト紹介サイトの窓の杜 (http://www.forest.impress.co.jp/) には、ダウンロードサイトを選ぶプルダウンメニューがある。このメニューは一度ダウンロードサイトを選んでおけば、次に訪れたときにも前回と同じサイトからダウンロードできる仕組みになっている。この仕組みは、クッキーという技術を使っている。クッキーを使ったウェブサイトではWWWサーバーやページごとにアクセスしたユーザーの情報をユーザーのPCにファイルとして保存しておき、そのユーザーが次にアクセスした際にはサーバー側でそのファイルから必要な情報を読み出す。これによって窓の杜のようなユーザーごとにパーソナライズされた機能を提供できるようになる(図1)。クッキーにどのような情報が記録されているかは、実際にハードディスクの中にあるクッキーのファイルを見てみよう(図2)。多くのサイトがクッキーを利用しているのがわかるだろう。ただし、クッキーはプライバシーやセキュリティの問題を引き起こしやすく、ブラウザの設定をクッキーが利用できないようにしている人も多い。自分のページでクッキーを使う場合には、あらかじめクッキーを利用していることを断っておいたほうがいいだろう。

今回の記事では、クッキーを扱うスクリプトを「cookie.js」という別のファイルにまとめる。使用する場合にはHTMLファイルと同じディレクトリーに置いておくだけでいい。このファイルを使えばクッキーを使ったページの作成はとても簡単になるので、今回の記事をもとにさらにいろいろとチャレンジしてみたいという人は、このファイルを参考にしてほしい。

図1 クッキーの仕組み

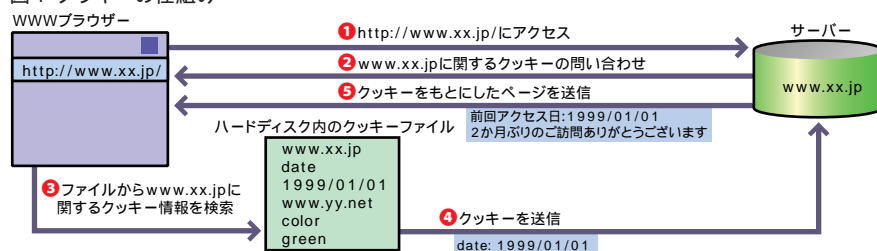


図2 クッキーの保存場所

ブラウザ	機種	場所
NN4.0	Win	C:\Program Files\Netscape\Users\%(ユーザー名)\cookies.txt
	Mac	システムフォルダ: 初期設定: Netscape Users: (ユーザー名): MagicCookie
IE4.0	Win	C:\Windows\Cookie
	Mac	IEのメニュー「編集」「受信ファイル」「Cookie」

cookie.js

クッキーから情報を読み出している部分

```
function readCookie(name) {
    allcookie = document.cookie + ' ';
    start1 = allcookie.indexOf(name);
    if (start1 != -1) {
        target = allcookie.substring(start1, allcookie.length);
        start2 = target.indexOf('=', 0) + 1;
        end = target.indexOf(';', start2);
        return(unescape(target.substring(start2, end)));
    }
    return( " ");
}
```

クッキーに情報を書き込む部分

```
function writeCookie(name, value) {
    expdays = 30;
    t = new Date();
    t.setTime(t.getTime() + expdays * 24 * 60 * 60 * 1000);
    document.cookie = name + '=' + escape(value) + '; expires=' + t.toGMTString();
}
```

クッキーを保存しておく日数。クッキーには寿命があり、この日数を過ぎたものについては自動的に削除される

クッキーの内容を消去する部分

```
function clearCookie(name) {
    if (document.cookie != " ") {
        t = new Date();
        t.setTime(t.getTime() - 1 * 24 * 60 * 60 * 1000);
        document.cookie = name + '=' + escape('') + '; expires=' + t.toGMTString();
    }
    alert( 'このページに関するCookieを消去しました' );
}
```

見に来てくれた回数によってページの内容を変化させる

「あなたは 人目の訪問者です」といったアクセスカウンターをよく見かける。しかし全部で何人がページを見てくれたかという情報は、ページの作者には意味があっても、ページを見る側の人にとってはあまり意味を持たない情報ではないだろうか。

そこで紹介したいのが、クッキーを使った訪問者ごとのアクセスカウンターだ。トータルではなく、特定の読者にとって何回目のアクセスかを調べることができ、アクセス回数によって表示内容を変えることもできる。これによって、初めて来た人には注意事項をお知らせしたり、10回以上来てくれた人には感謝のメッセージを表示したりといったことが可能になる。

test.htm は、このカウンターの簡単な使用例だ。①が前ページの「cookie.js」を呼び出している部分、②がカウンター本体、③がカウンターをリセットするボタンで、この②の部分を改良してアクセス回数に応じてさまざまなメッセージを表示するようにしたのがcount.htmだ。④が初めて来た人向けのメッセージ、⑤が10回ごとに表示されるメッセージ、⑥がそれ以外の場合に表示されるメッセージだ。さらに細かく条件を増やしたい場合には、⑦の部分を増やせばよい。条件を指定する部分が⑧で、代表的な条件式の書き方は図3のようになる。

test.htm

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Cookie Sample No.1</TITLE>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" SRC= "cookie.js" >
</SCRIPT>
</HEAD>
<BODY>
<H1>Cookieのサンプル・その1</H1>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" >
<!--
times = readCookie( 'times' );
if (times == " ") times = 1;
document.write(times);
times++;
writeCookie( 'times', times);
//-->
</SCRIPT>
<FORM>
<INPUT TYPE= "button" VALUE= "クリア"
onClick= "clearCookie( 'times' )" >
</FORM>
</BODY>
</HTML>
```

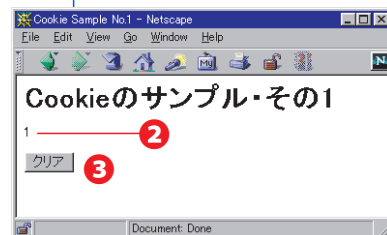
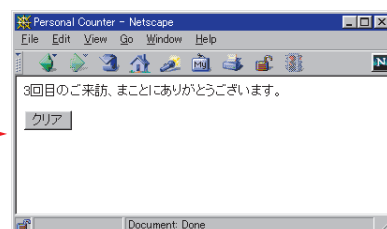
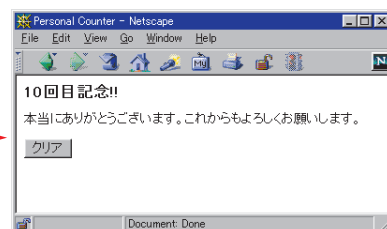
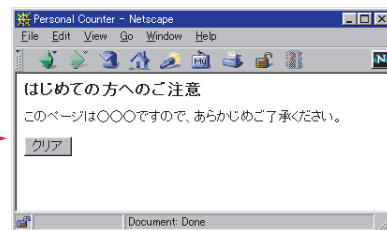


図3 条件式の例

times == 5	5回目
times <= 10	10回目まで
times >= 30	30回目以降
(times % 50) == 0	50回目ごと



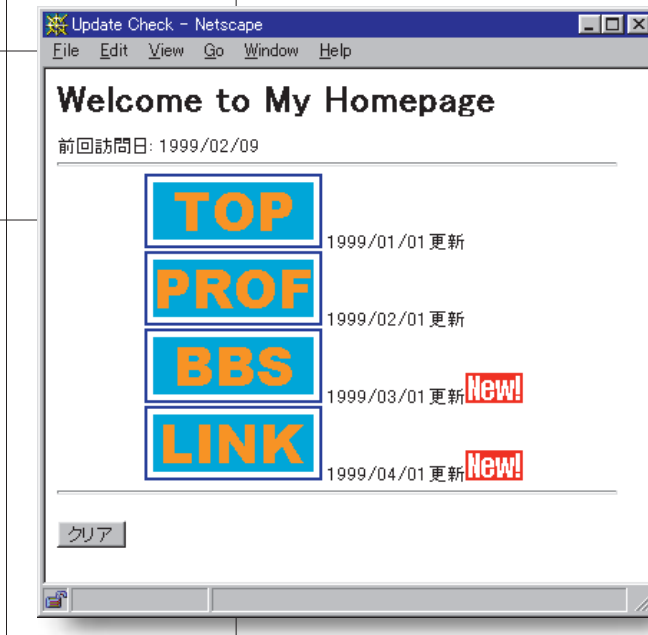
count.htm (一部)

```
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" >
<!--
times = readCookie( 'times' );
if (times == " ") {
times = 1;
document.write( <H3>はじめての方へのご注意</H3>');
document.write( このページは ですので、あらかじめご了承ください。<BR>');
} else if ((times % 10) == 0) {
document.write( <H3>', times, '回目記念!!</H3>');
document.write( 本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。<BR>');
} else {
document.write( times, '回目のご来訪、まことにありがとうございます。<BR>');
}
times++;
writeCookie( 'times', times);
//-->
</SCRIPT>
```


前回の訪問のあとに更新されたリンクを知らせる

ページが増えてきた場合には、リンクの横に「月 日更新」と書き添えたり、最近更新したリンクには「NEW」、「UP」といったマークを付けたりするのが一般的な方法だ。しかし、前回そのページを見たのがいつだったかを覚えている人はあまりいないだろうし、「NEW」マークがあっても一度そのページを見た人にとってはNEWではなくなる。そこで、読者ごとにアクセスした日付をクッキーで覚えておき、それ以降に更新されたリンクには「New」マークを表示する方法を紹介する。この方法ならば、見に来た人にとっての新しいリンクを確実に伝えることができる。

update.htm がそのソースファイルで、使う場合には①と④の部分を書きなおせばよい。①が各リンクの更新日時を書いておく部分だ。「//」から後ろの部分にはそのリンク先のファイル名を書いておき、間違えないようにしておく。④が実際に表示されるHTMLで、`<SCRIPT> ~ </SCRIPT>`の部分が更新日とマークを自動的に表示する仕組みになっている。表示するマークを変えるには②の部分を書きかえる。今回はレイアウトの都合で、更新されていないリンクには「NEW」マークと同じ大きさの透明な画像を表示しているが(③)。



書きかえる。今回はレイアウトの都合で、更新されていないリンクには「NEW」マークと同じ大きさの透明な画像を表示しているが(③)。

これが必要ない場合にはまるごとこの行を削除すればいい。

update.htm

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Update Check</TITLE>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" SRC= "cookie.js "></SCRIPT>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" >
<!--
var UP = new Array();
UP[1] = '1999/01/01'; // top.htm
UP[2] = '1999/02/01'; // prof.htm
UP[3] = '1999/03/01'; // bbs.htm
UP[4] = '1999/04/01'; // link.htm
//-->
</SCRIPT>
</HEAD>
<BODY>
<H1>Welcome to My Homepage</H1>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" >
<!--
visit = readCookie( 'lastvisit' );
if ( visit == " " ) visit = '1970/01/01';
document.write( '前回訪問日: ',visit);
v = new Date;
yy = v.getYear();
if (yy < 2000) yy = yy + 1900;
mm = v.getMonth() + 1;
if (mm < 10) mm = '0' + mm
dd = v.getDate();
if (dd < 10) dd = '0' + dd
newvisit = yy + '/' + mm + '/' + dd;
writeCookie( 'lastvisit', newvisit);
```

```
function checkUpdate(up) {
document.write(up, '更新');
if (up >= visit) document.write( '<IMG SRC= "gif/new.gif ">');
else document.write( '<IMG SRC= "gif/blank.gif ">');
}
//-->
</SCRIPT>
<HR>
<CENTER>
<A HREF= "top.htm "><IMG SRC= "gif/top.gif " ALT= "TOP "></A>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript ">checkUpdate(UP[1]);</SCRIPT>
<BR>
<A HREF= "prof.htm "><IMG SRC= "gif/prof.gif " ALT= "PROF "></A>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript ">checkUpdate(UP[2]);</SCRIPT>
<BR>
<A HREF= "bbs.htm "><IMG SRC= "gif/bbs.gif " ALT= "BBS "></A>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript ">checkUpdate(UP[3]);</SCRIPT>
<BR>
<A HREF= "link.htm "><IMG SRC= "gif/link.gif " ALT= "LINK "></A>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript ">checkUpdate(UP[4]);</SCRIPT>
<BR>
</CENTER>
<HR>
<P>
<FORM>
<INPUT TYPE= "button " VALUE= "クリア "
onClick= "clearCookie( 'lastvisit' ) ">
</FORM>
</BODY>
</HTML>
```

どのページを最初に表示するかを決められるようにする



frame.htm

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Sample of Flame</TITLE>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" SRC= "cookie.js "></SCRIPT>
</HEAD>
<SCRIPT LANGUAGE= "JavaScript" >
<!--
url = readCookie( 'url' );
if (url == " ") url = 'top.htm';
document.write( '<FRAMESET ROWS=25%,>' );
document.write( '<FRAME SRC= "menu.htm" NAME= "menu ">' );
document.write( '<FRAME SRC= " ', url, '" NAME= "contents ">' );
document.write( '</FRAMESET>' );
//-->
</SCRIPT>
</HTML>
```

フレームを使ったページで問題になるのは、リンク先やブックマークにはトップページしか指定できないという点だ。見に来た人がブックマークに入れておきたいのは、多くの場合にはトップページではなくその下のページではないだろうか。そこで、トップページをどのページにするかは見る人に決めてもらう、という方法を紹介しよう。これにより、同じURLにアクセスしているのに、Aさんが見た場合には掲示板が、Bさんが見た場合にはリンク集がトップページになるといったカッコいいページが作れる。ここまでやれば、見る人によってページが動的に変化する「パーソナライズ」といえるのではないだろうか。

frame.htm が全体のフレーム構造を定義しているファイルで、ここでクッキーを参照して各フレームにどのファイルを表示するかを指定している。トップページの指定がない場合に表示するファイルは①の部分で指定する。上に表示されるメニューの部分がmenu.htmで、トップページを指定するボタンのスクリプトはここに記述している。

ただし、この方法はフレームに表示するページが同じサーバーになければ使えないという制限がある。掲示板を他のサーバーから借りている場合などは使えないので注意してほしい。

menu.htm

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>TOP MENU</TITLE>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript" SRC="cookie.js"></SCRIPT>
</HEAD>
<BODY>
<CENTER>
<A HREF="top.htm" target="contents"><IMG SRC="gif/top.gif" ALT="TOP"></A>
<A HREF="prof.htm" target="contents"><IMG SRC="gif/prof.gif" ALT="PROF"></A>
<A HREF="bbs.htm" target="contents"><IMG SRC="gif/bbs.gif" ALT="BBS"></A>
<A HREF="link.htm" target="contents"><IMG SRC="gif/link.gif" ALT="LINK"></A>
</CENTER>
<BR>
「記録」ボタンを押すと、次回訪問時に現在のページを表示します。<BR>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
<!--
function storeFrame() {
url = parent.frames[1].location.href;
writeCookie( 'url', url );
alert( '現在のページを記録しました' );
}
//-->
</SCRIPT>
<FORM>
<INPUT TYPE="button" VALUE="記録" onClick="storeFrame()">
<INPUT TYPE="button" VALUE="クリア" onClick="clearCookie( 'url' )">
</FORM>
</BODY>
</HTML>
```

掲示板・カウンター・チャットルームすべてが揃う ジオシティーズをマスターしたい

プロバイダーに加入していなくても、ホームページを無償で持てるサービスとして有名なのがジオシティーズだ。しかも、単なるウェブページだけでなく、掲示板やカウンターの設置、チャットルームも用意されているのだ。ここではウェブページの編集方法を解説しよう。

ウェブページ編集ツールのファイルマネージャをマスターする

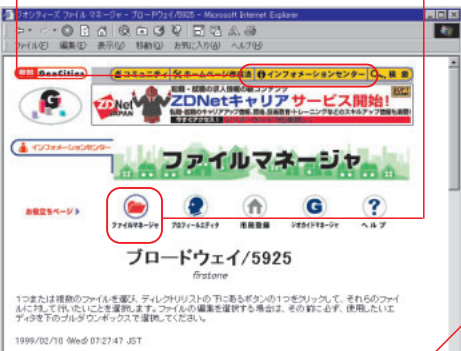
ホームページの開設は登録が済めば簡単にできるようになっている。特筆すべきは、HTMLの編集を含むすべての操作がWWWブラウザからできるところだ。

具体的には以下の操作手順に従ってほしい。

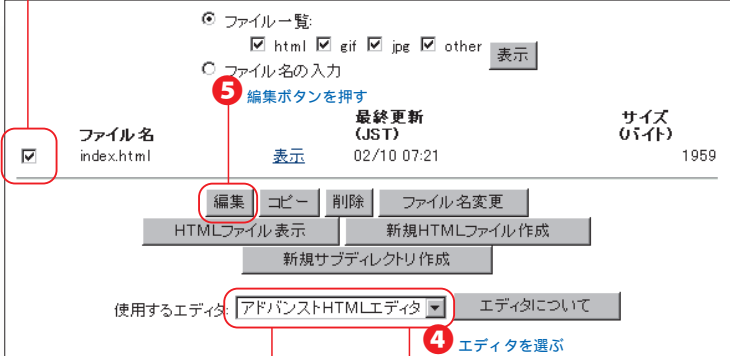
「ファイルマネージャ」にたどり着いたら、ファイルと編集に使う「エディタ」を選んで編集ボタンを押すだけで。エディタは3種類あるが、初心者には定型のウェブページが作れるEZエディタがベーシックHTMLエディタを選ぶとい

いだろう。HTMLの知識がある人はアドバンスHTMLエディタよりも、PCで動く好みのHTML作成ソフトを使ったほうが作業の効率がよくなるはずだ。この場合ftp.geocities.co.jpにFTPでファイルをアップロードする。

1 インフォメーションセンターに行く

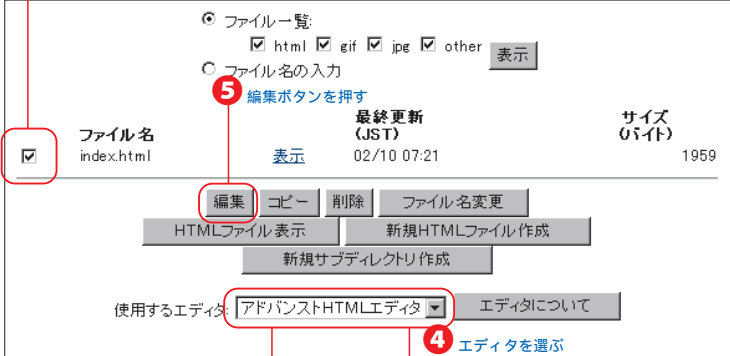


2 ファイルマネージャを選ぶ

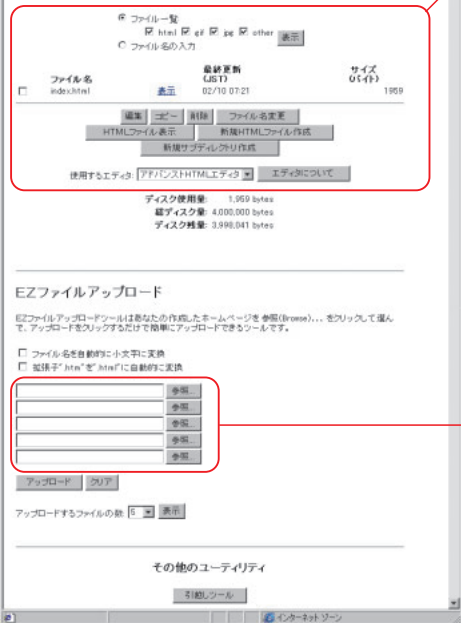


3 編集するファイルを選ぶ (初期状態はindex.htmlのみ)

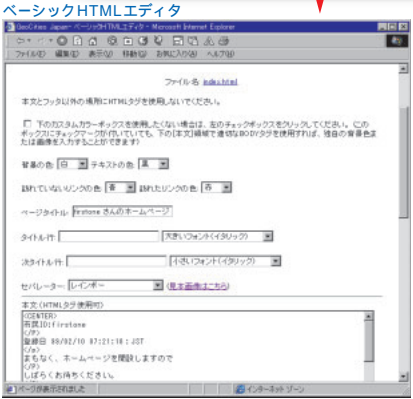
5 編集ボタンを押す



4 エディタを選ぶ

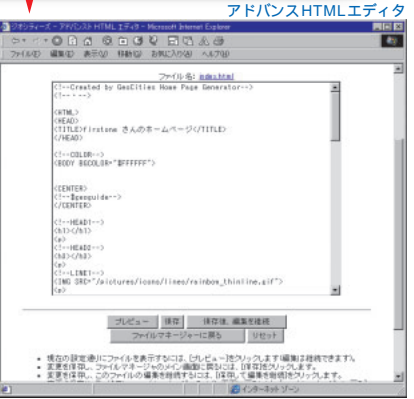


ベーシックHTMLエディタ



ベーシックHTMLエディタは、初心者向けにあらかじめ用意された定型ウェブページ作成用のもの。

アドバンスHTMLエディタ



アドバンスHTMLエディタはHTMLのタグの知識がある人向けのもの。特筆すべき機能はない。

ファイルのアップロード機能

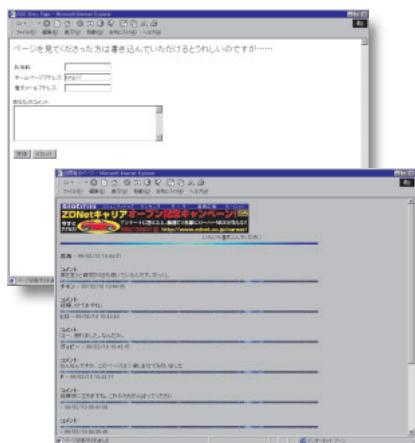
ファイルの転送もWWWブラウザからできる。この機能によって画像を転送したり、PCのエディタを使って編集したHTMLファイルを送ったりできる。これ以外にジオシティーズではFTPによるファイルの転送もサポートしている。

ウェブページにさまざまな機能を追加する

掲示板

まずインフォメーションセンターに行ってみよう（行き方は前ページの手順①）。ゲストブックというメニューをクリックするとログインするように促されるので、市民IDとパスワードを入力する。

ゲストブックの作り方の開設されたページが表示されるので、それに従って設定を行う。自動的に作成されるファイル（addbook.htmlとgeobook.html）の簡単な設定をして、あとはリンク先をウェブページに張るだけで済む。



addbook.htmlとgeobook.htmlは編集できるので、自分なりにカスタマイズしてみよう。

カウンター

掲示板のときと同様にインフォメーションセンターに行く。「カウンタ」というメニューをクリックすると、アクセスカウンターの開設の仕方が表示されるのでこれに従って進めていこう。

最初に「http://www.geocities.co.jp/cgi-bin/counter/市民ID.パスワード」というURLにアクセスする。すると確認の意味で「1」という画像が表示される。

次にアクセスカウンターを入れたいウェブページの好きな場所に

というタグを入れればいい。これだけでできあがりだ。



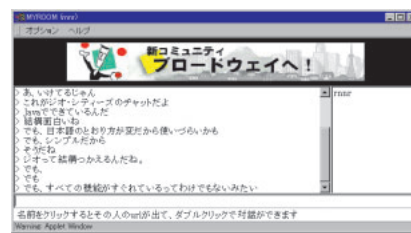
好きなときに好きな場所にアクセスカウンターを入れられる。

チャットルーム

もうおわかりだと思うが、これもほかの場合と同様にインフォメーションセンターに最初に行く。チャットツールというメニューがあるので、これをクリックして説明を読んでみよう。これはやや詳しく解説されていて難しそうに見えるが、基本的にはHTMLをコピーして自分のウェブページに貼り付けるだけでOKだ。

チャットツールを起動すると、Javaのウィンドウが立ち上がる。このウィンドウ内の色などがカスタマイズできるので、試してみるといいだろう。

どの機能も手軽にできてしまう驚きのものばかりだ。これ以外にもまだまださまざまな機能が用意されている。ウェブページ作りになれてきたら、徐々にこういった機能を追加していくといいだろう。



Javaで作られたアプレット。これ以外にも面白い仕掛けや機能が用意されている。

ほかにもある無料ホームページサービスを利用する

ジオシティーズ以外にも無料でホームページを持てるところはある。すべてのサービスが英語のものだが、日本語のページを公開できる。

ディスクの容量が大きいなどサービス内容が充実しているので、トライしてみるのもいいだろう。

名前	URL	機能	FTP	容量	電子メール
Angelfire	http://www.angelfire.com/	画像 サウンド ウェブベースエディター		5MB	別サービス
XOOM	http://xoom.com/	チャット		11MB	
GeoCities（米国）	http://www.geocities.com/	画像 チャット 掲示板 ウェブベースエディター ほか		11MB	
NETTAXI	http://www.nettaxi.com/	ウェブベースエディター チャット		10MB	
tripod	http://www.tripod.com/	画像 ウェブベースエディター		11MB	別サービス
Freeservers.com	http://www.freeservers.com/	カウンター 掲示板		12MB	
Netcolony	http://www.netcolony.com/	ウェブベースエディター	x	6MB	x
ACMEcity	http://www.acmecity.com/	画像 掲示板 ウェブベースエディター		20MB	
Fortunecity	http://www.fortunecity.com/	ウェブベースエディター		20MB	

ツールを選べばプロに近づく ホームページ作成を快適にしたい

どんなにホームページ作成のテクニックを覚えても、作業を効率よくこなすためには、やはりツールが必要だ。
自動化できる処理は自動化したほうがいい。
最後にホームページ作成を支援する便利なソフトウェアやウェブサイトを紹介しよう。

サーバーのファイルを自動更新

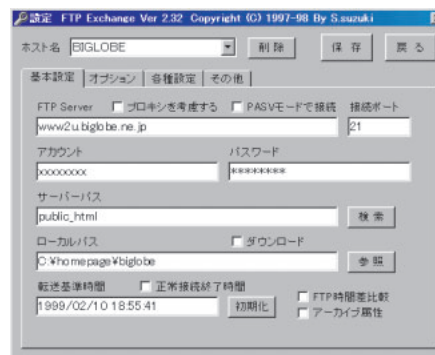
日々のホームページ更新で一番面倒なのは、サーバーへのファイルのアップロードだ。特にディレクトリー（フォルダー）をいくつも作ったり、いらないファイルを削除したりすると、どこをどう変えたのかわからなくなってしまう。FTP Exchangeを使えば、面倒な更新作業もボタンを1回クリックするだけでOKだ。ハードディスク上のファイルを削除すれば、サーバー上のファイルも削除してくれる。拡張子を指定すれば、ファイルを自動的にテキスト（アスキー）モードで送信する機能もある。ただし、ファイルのパーミッションを変更する機能はないので、CGIプログラムを設置するには別のFTPソフトが必要だ。



ボタン一発でアップロード！



設定画面も親切でわかりやすい



FTP Exchange ver. 2.36

種別：フリーウェア（カンパ500円）

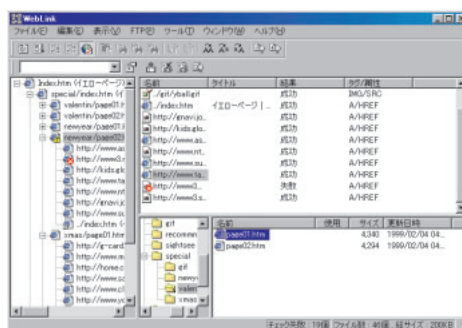
作者：鈴木聖史

関連ページ：

<http://www.toyota.ne.jp/~kawauso/web/>

もうリンク切れの心配はいらない

初めてホームページを作る人ならだれでも真っ先に作るのがリンク集だ。ところがリンクの管理はなかなかやっかいだ。ほかのホームページへのリンクは、そのページの引っ越しなどですぐ変わるし、うっかりすると自分のページ内のリンクも間違えることがある。リンク切ればかりのホームページではあきれられてしまうだろう。そこでWebLinkの登場だ。ハードディスク上のHTMLファイルを指定すれば、そのHTMLから始まるすべてのリンクをたどってチェックしてくれる。ほかのサイトへのリンクもチェックすればリンク集の管理は万全だ。簡単なFTP機能もあり、更新されたファイルを自動的にアップロードできる。



どんなにページ数が多くても
チェックしてくれる



WebLink ver. 1.68

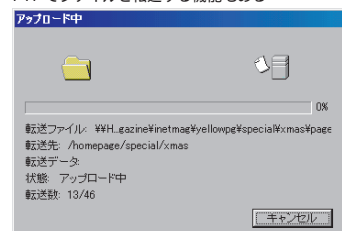
種別：シェアウェア（1,500円）

作者：金子敦

関連ページ：

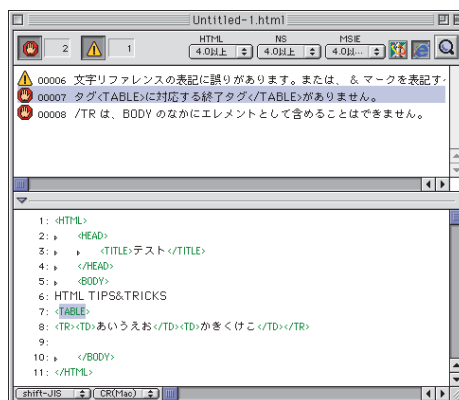
<http://www.iris.dti.ne.jp/~a-kaneko/>

FTPでファイルを転送する機能もある



HTMLの間違いが一発でわかる

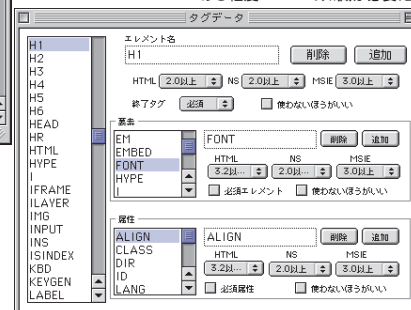
完璧なページを作ったつもりでも、ブラウザを変えると表示が大きく乱れることがある。ブラウザがサポートしているタグが違ったり、間違ったHTMLでもブラウザによっては正しく表示されてしまったりするのが原因だ。JCheckerでHTMLファイルをチェックすれば、一瞬で文法の間違いをリストアップしてくれる。チェックの際には、HTMLのバージョン(2.0、3.2、4.0)に加え、IE(3.0、4.0)とナビゲーター(2.0、3.0、4.0)の各バージョンの組み合わせを選べる。上級者向けには、「どのタグや属性がどう書かれていたらエラーとするか」をユーザー自身が細かくカスタマイズできる機能まである。他のソフトと連携する機能もあるので、同じ作者のテキストエディターJeditと組み合わせれば効果は抜群だ。



エラーメッセージをクリックすると、間違っている部分に色が付く。

CD-ROM収録先
ウィンドウズ
CD-ROM A Mac JChecker

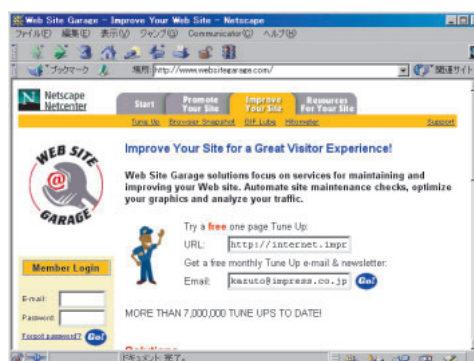
文法のデータをカスタマイズできる。
ある程度HTMLの知識が必要だ。



JChecker ver.1 
種別：シェアウェア(2,300円)
作者：株式会社まつもと
関連ページ：
<http://www.matsumoto.co.jp/>

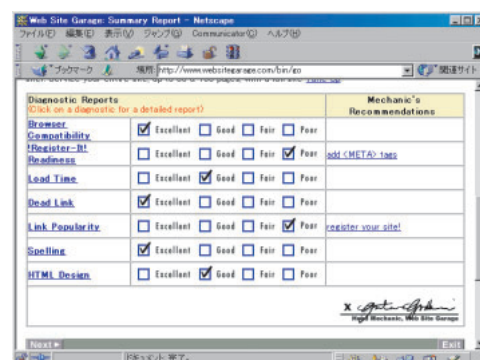
ウェブ上でホームページを評価してもらおう

どうせなら作ったホームページのチェックも、すべてインターネットですませたい。そんな人には、「ホームページ作成支援ホームページ」とも言えるサイトはいかがだろ。Web Site Garageで自分のページのURLを入力すると、ブラウザの互換性、検索エンジンに登録されやすいか、ダウンロード速度、リンクが切れていないか、ほかのページからのリンク数、スペルの正しさ、HTMLデザインの7つのポイントについて評価してくれる。評価が低い項目はどうすればいいか具体的な改善点まで指摘してくれる。たとえば、ダウンロード速度では28.8kbpsや56kbpsなど通信速度による速度の違いが数字で表示され、HTMLデザインでは「タグにALT属性がない」と警告されるといった具合だ。この評価サービスは無料だが、サイト全体のページを定期的に評価したり、18種類のブラウザでどう表示されるか見せたりするなどのサービスが有料で用意されている。ただし、無料のサービスも有用のサービスもすべて英語だ。



URLとメールアドレスを入力するだけ

ホームページの評価が4段階で表示される



Web Site Garage

運営元：AtWeb, Inc.

<http://www.websitegarage.com/>

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp